



伸びよう阿曽っ子



4月品格目標：あいさつ

読み聞かせをしていただきました！

4月17日(木)地域の読み聞かせボランティアの方々による読み聞かせ「きいてみないかい？」がありました。これは、地域・保護者ボランティアの方々毎月1回、8:20~8:35に図書室で選んだ本を子どもたちに読んでくださるという取組です。

どの学年の子ども達も目を輝かせながら聞き入っていました。とてもゆったりとした時間が流れ、子ども達がやさしい空気に包まれたひと時でした。



ベネッセ教育総合研究所:「読書の効果」の研究

研究目的:子どもにとっての「読書」の意味や影響を明らかにする

これまでの研究成果(主な知見)

●2018年度研究

- ① 読書は学力が低い子どもたちに大きなプラス効果がみられた
- ② 読書量の効果は「算数」で大きい

●2019年度研究

- ① 幅広い読書が「思考力」や「創造性」にプラスの効果がある
- ② 読むジャンルの幅の広さが「社会科」の成績の向上に影響している

詳しくは

<https://berd.benesse.jp/special/bigdata/ebookanalysis>

2020年度(今回)の研究

●テーマ

- ① 読書は「国語」の力=知識や思考力の向上にどのような影響があるか
- ② コロナ禍における読書の効果とはどのようなものか

●研究の方法と対象

- ① 進研ゼミの電子書籍サービス「まなびライブラリー」と「実力テスト」の1年分の履歴の解析(小学6年生・約1万人分)
- ② 「まなびライブラリー」利用者に対するアンケートの分析(同・約2千人分)

幼児の時期は読み聞かせをしていても、小学校に入ったら自分で読ませるというご家庭も多いかもしれません。

しかし、小学生になっても保護者に読み聞かせをしてもらうのは、子どもにとってうれしいものです。無理のない範囲で、読み聞かせを続けてみるのもよいでしょう。

また、読書をすることで、以下のようなことに効果があるとも言われています。

- ★語彙力が身につく
- ★論理的な思考力が育つ
- ★集中力が鍛えられる
- ★いろいろな知識が得られる
- ★想像力が豊かになる
- ★リラックス効果がある

「読書」というと、活字で書かれたものでなければいけないと思いがちですが、子どもの好きなマンガや絵本でも、十分に読書の効果は得られます。さまざまなストーリーに触れる中で、子どもの興味や関心が広がっていくはずですよ。

読書には、読解力や知識が身につくといった学習面だけではなく、論理的な思考力や集中力など、子どもがこれから生きていくために必要な力も身につけられる効果があります。

本を読むことで得られる想像力や表現力、コミュニケーション能力などは、子どもの人生を豊かにしてくれることでしょう。

今回わかったこと



「読書をたくさんした子ども」はどうして知識や思考力が高まるの? 本の読み方の工夫



他にどんな効果があるの? 読書の心理面への効果



※「読書をたくさんした」「しなかった」の分類は、「まなびライブラリー」の読書履歴に基づく分類であり、紙の書籍をふくめた全体の読書量ではない。

- 考察
- ① 読書をたくさんしている子どもは、多様な資質・能力を伸ばしている。
 - ② 読書量と読み方の工夫の両方が、能力の向上に関連している可能性がある。
 - ③ 読書には心の安定をもたらす効果が見られ、コロナ禍においてより重要になると考える。

3年生総合学習「総社 大大大好き」が始まりました

本年度、3年生の総合的な学習「総社 大大大好き」では、かつて総社市でさかん栽培されていたハッカについて学ぶことになりました。4月18日（木）は、阿曾応援部ほか地域のたくさんの方々にご来校いただき、なぜ、日本で初めてハッカが栽培されるようになったのか等について学んだり、ハッカの爽やかなにおいをかいだり、ハッカのお茶を飲んだりしました。そして「自分たちもハッカを育てて収穫したい!」という声があがり、ハッカの苗を鉢植えしました。1学期中には収穫できるようで、子どもたちは登校後、喜んで水やりをしています。本年度から始まったこの活動は地域の方々のご協力がなければできない貴重な学習です。地域の皆様に感謝、感謝です!!



ハッカは、スペアミントやペパーミントと大別して国外では日本ハッカと呼ばれており、その昔仏教伝来と共に中国から渡来し、漢方として重宝されていたと考えられています。また一説には日本に茶の種子を持ち帰り栽培方法を広めた栄西が、お茶と共に持ち帰り、京都に移植したとする説もあります。ハッカの本格的な栽培開始は江戸期になりますが、換金作物としてのハッカに着目し、大規模な作付けを始めた人物が総社出身の秋山熊太郎でした。（総社宮の前門には今でも秋山熊太郎氏の名が刻まれています。）その後、総社を皮切りにハッカ栽培は全国的に広がりを見せ、昭和初期に至るまで日本は世界一のハッカ生産国になり、輸出大国として隆盛を誇ることになりました。しかし合成ハッカの出現や、アフリカや中国、インド等の低コストのハッカに押されハッカ大国の地位を譲ることになり、日本のハッカ産業は退廃していきました。

お世話になった「NPO 法人 総社商店街筋の古民家を活用する会」より
<https://www.soja-kominka.com/hakka.html>